NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞の見出しを学ぼう

2．学校名

新潟県新潟大学教育人間科学部附属新潟小学校

3．実践者名（代表者名）

坂井純

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　40人

6．単元（本時の学習課題）名

小松菜を作る坂井さん（新聞でまとめるための見出し作りを学ぼう）

7．目標(狙い)

分かりやすい新聞を作るために、実際の新聞では、どのような工夫をしているのかを考え、自分の新聞作りに生かして、見出しを考えることができる。

8．評価の視点

実際の新聞記事から見出しの工夫を見付ける活動を通して、一言で見出しを付けるよさを理解し、社会科新聞での見出し作りに生かして表現できたかを、子どもが作った新聞記事、学習後の振り返りで評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「地域の生産活動に励む人々」［社会科：12時間］

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①小松菜についての関心をもつ。（1時間）
②小松菜作りについて学習問題をつくる。（1時間）
③学習問題について予想をたて、見学の計画を立てる。（1時間）
④小松菜作りの農家へ見学に行く。（3時間）
⑤見学から分かったことをまとめる。（1時間）
⑥害虫を予防するために、農家の方がしている工夫を考える。（1時間）
⑦農家の方が小松菜の出荷に段ボールでなくプラスチックコンテナを使う理由を考える。（1時間）
⑧これまでの学習してきた小松菜作りの工夫について、新聞形式でまとめる。（3時間）（本時2/3）

（留意点）
・学習してきたことを継続的にノートにまとめさせておく。
・授業で扱う新聞記事は、写真・見出しを別々に拡大して提示する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

子どもは、新聞記事の写真から見出し作りを経験した後に、実際の見出しを見ることで、「見出しを見ただけで、だいたいのことが分かる」「本当の題名は一段目に書いてあって、見た感じを伝えている。二段目はその説明をしている」と見出し作りの特徴をとらえた。

12．成果と課題

新聞記事の写真から、実際の見出し作りの特徴をとらえることで、「一目で記事の内容が伝わる」ことのよさを子どもは感じ取ることができた。その上で、自分たちの学習新聞作りでも生かすことができた。しかし、見出しの特徴をより「書く」ためのポイントにまで高めることができなかったため、どのように書けばよいのか迷う子も出た。子どもに獲得させたい見出し作りの特徴をより焦点化する必要がある。